

現代文化人類学会

投稿規定および執筆要項（2021.7.17 更新）

●投稿規定

1. 投稿は、文化人類学および関連分野の原稿を広く募集する。投稿者は、真摯な研究を志す者であれば所属を問わないが、本学会会員とする。ただし編集委員会の依頼原稿はこの限りではない。共著の場合、筆頭著者は本学会会員とする。
 2. 投稿希望者は、所定の投稿申込書に記入し事前にメール添付で提出すること。
〈問い合わせ・投稿申込書ならびに原稿送付先〉
『文化人類学研究』編集委員会：E-mail: vitaedit_jca@list.waseda.jp
〈投稿申込書の入手〉学会HP (<https://currentanthropology.jimdofree.com/>) 内からダウンロード
なお、当該年 12 月に刊行される巻の投稿申込は 2 月末日迄、投稿原稿の提出は3 月末日迄とする。
 3. 原稿の種目は原則として以下の通りとし、それぞれの種目の要件をすべて満たすものとする。これらの要件および執筆要項の指示を満たさない投稿については、受け付けない場合がある。なお、これ以外の種目（報告、資料紹介など）を希望する場合には編集委員会にあらかじめ相談すること。
 - (1) 論文：25 ページ以内（題目、日本文要旨、キーワード、本文、図版、註、文献目録、英文題目、英文要旨、英文キーワードのすべてを含む）
 - オリジナルなデータを提出するか、既存のデータの新たな解釈を提示するもの。
 - 先行研究を十分に咀嚼し、関連する幅広い研究の流れを正確に踏まえているもの。
 - 一定の明確な方法と分析概念、理論的枠組みを明示し、説得的な議論を行っているもの。
 - 学術的に高い価値を持ち、今後の文化人類学の研究発展に貢献するもの。
 - (2) 研究ノート：13 ページ以内（題目、キーワード、本文、図版、註、文献目録、英文題目、英文要旨、英文キーワードのすべてを含む）
 - オリジナルなデータを提出するか、既存のデータの新たな解釈を提示するもの。
 - 分析の視点が明確で、分析概念を適切に用いて説得的な議論を行っているもの。
 - 価値ある議論へ発展する端緒となるような、学術的に意義のある論点を提示しているもの。
 - (3) 書評論文：7 ページ以内（対象著作の書誌情報、本文、註、文献目録のすべてを含む）
 - 学術的に高い価値のあると思われる著作を紹介しているもの。
 - その著作の学術上の意義を、先行研究を踏まえて正確に評価しているもの。
 - その著作が扱う問題がどのようなものであり、その問題においてその研究がどのような意義を持つのかを明確に論じ、今後の研究のあり方を明らかにするもの。
 - (4) ブック・レビュー：2 ページ以内（書誌情報、本文、註のすべてを含む）
 - 学術的に高い価値のあると思われる著作を紹介しているもの。
 - その著作が現在の文化人類学に対して持つ、学術上の意義を適切に紹介しているもの。
- 査読後の修正にあたり、やむを得ない場合はそれぞれ規定ページ数の1割程度の増量を認める。
4. 投稿原稿は、一定の学術的水準に達していることが望ましい。その具体的な基準は、別掲「掲載原稿の査読審査方針」の「審査における留意事項」に示されているので、投稿する前にまずそれらの留意事項を一つ一つ検討することが望まれる。この基準に明確に反している投稿については、受け付けない場合がある。
 5. 原稿掲載の可否は、編集委員会が依頼する 2 名以上の査読者の意見に基づき、編集委員会で審査のうえ決定さ

現代文化人類学会

投稿規定および執筆要項 (2021.7.17 更新)

れる。また、審査の結果、査読および編集委員会の意見に基づく修正、または原稿の種目の変更を求める場合がある。なお、原則として査読者の氏名は各巻ごとに公開するが、各原稿の担当者を特定しようとする問い合わせには応じない。

6. 掲載原稿の著作権は著者に、編集著作権は本学会にそれぞれ帰属するものとする。また、本学会誌掲載の原稿を転載する場合は、事前に編集委員会に連絡のうえ出版物1部を本学会に寄贈すること。
7. 著者が本学会誌に掲載された論文等を自己の所有するサーバ、もしくは著者の所属する機関の運営するサーバに、機関リポジトリ等の電子媒体を用いて公表する際には、査読後最終原稿のPDFファイルのみを掲載するものとする。また、上記掲載にあたっては必ず、論文等の出典を明示すること。以上の条件を満たす場合に限り、当該掲載には学会の許諾を要せず、その他の場合においては、別途学会の許諾を要するものとする。

●執筆要項

1. 論文および研究ノートは、日本文または英文で、横書き1段組みとする。日本文の場合は1ページが1行42字×38行、英文の場合は1ページが500wordsとし、初ページは題目分として6行分下げる。また、書評論文およびブック・レビューは、日本文の横書き2段組みとする。1ページは1行22字×40行×2段とし、初ページは題目分として2段とも6行分下げる。
2. 原稿の構成は、種目別に以下のとおりである。
論文：題目、日本文要旨（800字程度）、キーワード（5語程度）、本文、註、文献目録、英文題目、英文要旨（150words以内）、英文キーワード（5語以内）
研究ノート：題目、日本文要旨（800字程度）、キーワード（5語程度）、本文、註、文献目録、英文題目、英文要旨（150words以内）、英文キーワード（5語以内）
書評論文：題目、本文、註、文献目録
ブック・レビュー：題目、本文、文献目録
3. 論文ならびに研究ノートの英文題目、英文要旨、及び英文キーワードは、提出前のネイティブチェックを必須とする。
4. 本文中の外国の固有名詞は原則として片仮名で書き、直後に括弧を付して外国文字を記すこと（初出のみ）。ただし、一般的な用語はこの限りではない。
〈例〉 ジーン・レイヴ (Jean Lave) アグン山 (Gn. Agung)
なお、特殊な漢字やローマ字以外の外国文字を使用する場合は事前に編集委員会への相談を必要とする。
5. 本文および註に引用文献を示す場合は、著者の姓、出版年、ページの順とし、下のように記すこと（姓の直後に半角スペースを入れる。また、コロンとカンマは半角とし直後に半角スペースを入れる）。
〈例〉 [江守 1976a: 200-208; 1957b: 266-267; 中根 1967: 29-35]
なお、引用対象は、自らの主張の根拠を提示したり、話題に関する重要な情報源を参照したりするために必要な文献に限る。議論の構成に不可欠とはみなされない文献の引用は避けること。
6. 投稿原稿は投稿者を匿名として査読を依頼するので、投稿者が誰であるかを直接特定できるような記述を避けるものとする。本文および註のなかで投稿者自らの研究を引用するときは、下の例のように記すこと。なお、同様な理由から、「……については別稿で論じた」といった読者の参照を要求するような表記を避け、提示した文献の内容を簡潔に紹介すること。

現代文化人類学会

投稿規定および執筆要項（2021.7.17 更新）

〈投稿を受理できない例〉

「筆者もこの点をすでに指摘している [大隈 1992] 。」

「この点については、拙稿 [1992: 15-19] を参照して欲しい。」

〈投稿を受理できる例〉

「大隈 [1992] もこの点をすでに指摘している。」

「この点については、大隈 [1992: 15-19] が……と述べている。」

7. 図版（図、表、写真等）を用いる場合、版面は縦 20.5cm、横 14cm 以内とし、これにキャプションを含むものとする。図版は、希望する挿入位置や掲載サイズがわかりやすいよう本文中にあらかじめレイアウトしておく。また、原版には、植字、縮尺等が完備したものを用意し、引用の場合は、必ず典拠を明らかにすること。原版の返却を希望する場合は、あらかじめ申し出ること。
8. 著作権が他の学会、出版社にある出版物等から、内容や図版等を引用する場合は、投稿者自身が著作権問題を解決しておくものとする。
9. 註は、本文の後、文献目録の前に一括とし、（1）（2）…の通し番号を付し、下のように記すこと。
〈例〉（本文中の付番）
……に引きつけたかたちでの機能や意味の解釈【註 1】に対する……
〈例〉（註）
（1 5）この「規則」と「慣習」の言い換えはサール自身……に構成的規則の概念を対応させ、大半の種類
の発語内……
10. 文献目録は註の後とし、著者ごとにまとめて、姓名のアルファベット順または 50 音順に配列すること。各文献の基本的な書式は、著者姓名、〈改行〉出版年、論文名、書名または雑誌名（外国語の単行本と雑誌の名称はイタリックとなるが、入校時は下線をひいておくこと）、巻(号)、編者または訳者姓名、出版地（日本国内の場合は不要）、出版社、ページの順とし、下のように記すこと（コロン、カンマ、ピリオドなどは半角とし、直後に半角スペースを入れる）。なお、本文中に直接参照・引用していない文献は掲示しない（翻訳書のみを参照する場合は翻訳書のみを表記し原著は表記しない）こと。

〈例〉（単行本・訳本などの場合）

蔵持不三也

2003 『英雄の表徴—大盗賊カルトゥーシュと民衆文化』, 新評論.

ギアツ, クリフォード

1996 『文化の読み方／書き方』（森泉弘次訳）, 岩波書店.

〈例〉（雑誌・論文集などの場合）

川田順造

2000 「マンデ音文化とハウサ音文化—イスラーム音文化の地方的展開」『民族学研究』65(1), 62-77.

関本照夫

1998 「文化概念の用法と効果」『文化という課題』岩波講座文化人類学第 13 巻（青木保他編）, 岩波書店, 19-39.

Asad, Talal

1983a Anthropological Conceptions of Religion: Reflections on Geertz, Man 18: 237-259.

1983b Notes on Body Pain and Truth in Medieval Christian Ritual, Economy and Society 12: 287-327.

現代文化人類学会

投稿規定および執筆要項 (2021.7.17 更新)

Kelly, John D.

2010 Seeing Red: Mao Fetishism, Pax Americana, and the Moral Economy of War, in Anthropology and Global Counterinsurgency, John D. Kelly, Beatrice Jauregui, Sean T. Mitchell, and Jeremy Walton (eds.), Chicago: University of Chicago Press, 67-83.

〈例〉 (オンラインジャーナル・ウェブページなどの場合)

山本達也

2016 「伝統に携わる一チベット難民芸能集団の現在」 SYNODOS. 2016年9月1日取得.
<http://synodos.jp/international/16178>.

現代文化人類学会

2016 「『文化人類学研究』既刊各巻の内容」現代文化人類学会ホームページ. 2016年9月1日取得.
<http://www.waseda.jp/assoc-wsca/kikan.html>.

Jackson, Antoinette

2016 More than Scenery: National Parks Preserve Our History and Culture, Anthropology Now, Accessed September 1, 2016, <http://anthronow.com/online-articles/more-than-scenery>.

Buzon, Michele R., Stuart Tyson Smith, and Antonio Simonetti

2016 Entanglement and the Formation of the Ancient Nubian Napatan State, American Anthropologist 118(2): 284-300. Accessed September 1, 2016. doi: 10.1111/aman.12524.

11. 投稿にあたっては、原則としてパソコン、ワープロ等で入力し、本学会誌最新巻における各原稿種目の体裁に可能な限り準拠しながら、題目、日本文要旨、キーワード、本文、図版、註、文献目録のすべてを規定ページ内に収めたハードコピーを郵送するか、同様な体裁の MS-Word ファイルをメール添付で提出すること。

また、審査を経て掲載が決定した場合、最終入稿に際しては、(1)文章部分についてはテキスト形式または MS-Word 形式のデータ、(2)図版等については原版もしくは編集委員会が適切と認める形式のデータ、をそろえて提出すること。

なお、日本文で投稿する場合、英文題目、英文要旨、英文キーワードについては、初回投稿時に記載する必要はないが、掲載決定後に提出できるよう用意しておくこと。